

岡部 長忠さん(最後の岸和田藩主岡部長職のひ孫・馬事研究家)が選んだ10冊

資料	コメント
<p>剣客シリーズ 全16巻 池波 正太郎/著 新潮社</p>	<p>主人公である秋山小兵衛の、隠居してから一人息子よりも若い後妻を迎えて仲睦まじく暮らすなど、融通無碍に飄々として過ごしながら、道を外さず世の悪を正す姿、身分の上下にかかわらず多くの人々と交わり、「小判をあごで使う」と評される恬淡無欲な生き方に羨ましさを感じます。</p>
<p>評伝 岡部長職 一 明治を生きた最後の藩主 小川原 正道/著 慶応義塾大学出版会</p>	<p>版籍奉還によって藩主の地位を去った後に、旧家臣らと机を並べて学んだ慶応義塾に於いて、華族嫌いで知られる福沢諭吉から「行状宜敷人物」と評され、その推薦を得て欧米に学んだのち、明治政府の外交官として不平等条約の改正に腐心し、更には政治家として近代日本の発展に尽くしながら、軽妙洒脱さを併せ持った魅力的な人物像、また自らキリスト教に帰依して新島襄に依頼し、岸和田に教会を建てるなど、多くの岸和田市民の皆様に曾祖父の多岐にわたる生涯を知って頂きたいと願っています。</p>
<p>障害馬術 木村 有日子/訳 ベースボールマガジン社</p>	<p>手前味噌には成りますが、世界各国で翻訳出版されている本書はアンソニー・パールマン氏の名著 Springriten の日本語訳に当って監修をつとめた縁もあり、馬術を志す人達だけでなく、馬を納得させて共同作業で目的を目指すやり方は、人との付き合いにも通じる点が多くあるので、是非広くご紹介したい一冊です。</p>

岡部 長忠さん(最後の岸和田藩主岡部長職のひ孫・馬事研究家)が選んだ10冊

<p>坂の上の雲 司馬 遼太郎/著 文芸春秋社</p>	<p>日本の激動期に生きた三人の主人公（「知謀湧くが如し」と云われ、連合艦隊参謀として日本海海戦を勝利に導いた秋山真之、その兄で騎兵第一旅団を率いて世界最強と云われたコサック騎兵団を破り「日本騎兵の父」と讃えられた秋山好古、近大俳句の祖となった正岡子規）を通じて、日本が近代国家として成長する明治と云う時代を生き活きと描き、長編であるにも関わらず一気に読ませてくれます。</p> <p>テレビドラマ化に当って馬関係の考証を務めた縁もあって、多くの司馬作品の中でも特に親しみを感じている一編です。</p>
<p>いろは判じ絵 岩崎 均史/編 青幻社</p>	<p>江戸時代人の豊かな想像力とユーモア感覚が楽しめます。</p> <p>ほかに『広重と歩こう東海道五十三次』アートセレクション、『落語の博物誌—江戸の文化を読む』 歴史文化ライブラリー、など。</p>
<p>ああ言えばこう食う 往復エッセイ 阿川 佐和子・檀 ふみ共著、集英社</p>	<p>作家阿川弘之の長女でありエッセイスト・タレントの著者が親友の人気女優と食べ物について交わしたエッセイ集、時に脱線が互いのお見合いの回数にまで及び修羅場に成る事も・・・。</p> <p>ほかに『メダカの花嫁学校』世界文化社、『あんな作家、こんな作家、どんな作家』講談社、『その場しのぎの英会話 カタコトでも一年間住んじゃった』光文社など。</p>

岡部 長忠さん(最後の岸和田藩主岡部長職のひ孫・馬事研究家)が選んだ10冊

<p>気が付けば騎手の女房 吉永 みち子/著、草志社</p>	<p>この作品で大宅壮一ノンフィクション賞に選ばれた筆者は日本初の女性競馬新聞記者でもあり、現在は多くの政府関係委員会や新聞社のご意見番も務めています。</p> <p>外語大学を卒業後、全く違った様々な世界に身を置きながら成長して行く姿は新鮮で魅力的です。</p>
<p>嘘つきアーニャの真っ赤な真実 米原 万里/著 角川書店</p>	<p>ロシア語同時通訳・エッセイスト・作家であり、共産党幹部の父に連れられて幼い頃から外国のロシア語学校に学んだ著者は、また下ネタをこよなく愛する（但し嫌らしさは全く無い）事でも知られて居り、『不実な美女か貞淑な醜女か』 徳間書店、『ガセネッタ&シモネッタ』 文芸春秋社、など多くの著書の中で異国文化との交流を魅力的な筆致で描いています。</p>
<p>そんなバカな!-遺伝子と神について 竹内 久美子/著 文芸春秋</p>	<p>ベストセラーとなった本書のほかに、多くの著作で動物行動学の知見に基づいて身近な事柄をユニークな視点から解説し、特に全ての生物は遺伝子の乗り物（vehicle）に過ぎないと云う下りなど、思わず「そうだったのか」と目から鱗の落ちる思いをさせて呉れます。</p> <p>ほかに『小さな悪魔の背中の窪み-血液型・病気・恋愛の真実』 新潮社、『パラサイト日本人論-ウィルスが作った日本人のこころ』 文芸春秋 など</p>

岡部 長忠さん(最後の岸和田藩主岡部長職のひ孫・馬事研究家)が選んだ10冊

メタルカラーの時代

山根 一真/著 小学館

一貫して「日本のもの作り」を主題として取り上げ、日本人の律義さ・勤勉さによって如何に独創的で優れた製品が次々と生まれて来たかが紹介されて、「日本に生まれて良かった」と思わせてくれるシリーズです。

ほかに『スーパー書斎の遊戯術』 文芸春秋社、『小惑星探査機はやぶさの大冒険 星のかけらを拾って地球に戻るまで、60億キロを、7年間かけて旅をした惑星探査機の運命。』 マガジンハウス、など